



風景の句読点

Punctuation of Scene 第10回

長瀨岩畳

株式会社千代田コンサルタント/交通事業部/道路部/道路交通室/道路課

関根 秀明 SEKINE Hideaki (会誌編集専門委員)

長瀨岩畳

地殻変動と荒川の流によって形成された「長瀨岩畳」(埼玉県長瀨町)



長瀨岩畳の成り立ち

長瀨町は埼玉県の北西部に位置し、春は桜並木にユキヤナギ、夏は川遊び、秋は紅葉や七草、冬はロウバイに梅など一年中楽しめる観光地で、荒川の流が作り出した渓谷は国の名勝・天然記念物に指定されている。その中心部に「長瀨岩畳」がある。

長瀨一帯は遥か昔、海の底にあった。海底に堆積した火山噴出物と泥や砂などが白亜紀後期(約8,000万年前)に海洋プレートの動きによって20~30km以上地下深く取り込まれた。その時沈んだ堆積物には非常に高い圧力が加わり、うすく板のように剥がれやすい結晶片岩が生成された。それが隆起によって再び地上に露出し、圧力から解放され

「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたいくなるような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。



ポットホール

膨張したことで垂直方向にたくさんのひび割れが生じた。これが荒川の流によって、水平方向の層(片理)と垂直方向の割れ目(節理)に沿って剥がされるように浸食され、岩畳が形成された。そこは垂直に近い節理がほぼ東西・南北方向に格子状に走り、あたかも畳のように四角く区切られており、広さは幅が最大で約80m、長さ約600mにわたり畳約2万枚分の広さになる。

また、岩畳では川底の岩盤のくぼみに入り込んだ石が、川の流によってまるで洗濯機の中のように回転し、長い年月をかけて岩盤を削ってできたポットホール(甌穴)を見ることができる。

日本地質学発祥の地

岩畳を代表に、この付近は地下深部で起こった変成作用や隆起の過程が地表で観察できることから「地球の窓」と言われ、多くの地質学者によって研究されてきた。

1877年、東京大学

に地質学科が創設され近代地質学が初めて日本に導入されると、翌年には地質学教室初代教授であるドイツ人のハインリッヒ・エドムント・ナウマン博士が長瀨の調査を行った。以来、長瀨一帯は地質学的価値の高い場所だと分かり、我が国地質学上の重要な研究の拠点となった。その証として埼玉県立自然の博物館には「日本地質学発祥の地」の石碑がある。

長瀨の自然美を昔ながらの和舟で

長瀨の自然美を楽しむ方法の一つとして「長瀨ラインくんだり」がある。

川の水が深くて流れが静かな所を「瀨」といい、それが約1kmの長い区間にわたっていることから「長瀨」の名が付いた。荒川は、この一帯で青く淀んだ瀨になって美しさを増し、自然の渓谷美や岩畳を昔ながらの和舟から眺めることができる。船頭さんが巧みに竿をさばきながら、それぞれ個性溢れるガイドで長瀨ラインくだりを一層楽しませてくれる。



日本地質学発祥の地の石碑

<参考資料>

- 1)「一般社団法人 長瀨町観光協会」HP (<https://www.nagatoro.gr.jp/>)
- 2)「埼玉県立自然の博物館」HP (<https://shizen.spec.ed.jp/>)
- 3)「ジオパーク秩父」HP (<https://www.chichibu-geo.com/>)

写真は筆者